

## 2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部 人間健康学科	助教	木野村嘉則
最終学歴	学位	専門分野
筑波大学大学院体育科学研究科 スポーツ科学専攻修了	修士（体育学）	体育方法学

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

真に信頼して事を任せうる人格の育成を中心として、人材育成を行う。

##### 【目標】

スポーツを指導する立場となるための基礎知識を教授し、指導者としての態度を育成する。この際には、建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」が重要となること理解させる。その際、校訓の「真面目」にもあるように真摯に取り組んでいくことが信頼の構築につながることを教える。

##### 【方針】

スポーツや体育の指導の実践的専門家の養成を念頭に置き、学生が責任を持った行動を行えるよう手法を配慮する。

##### 【計画（方法）】

講義では、スポーツのコーチングやトレーニングに関する実践に関する事例を用いながら、学生が理論について具体的なイメージを持てるよう工夫する。この際、Teams を利用しながら、授業資料の展開、学生とのやり取りに活用したい。このことは演習でも同様である。

演習では、自ら考え情報収集し行動する資質を高めること促し、次年度以降の学習へとつながっていくように取り組みたい。

#### ○担当科目（前期・後期）

##### （前期）

トレーニング科学、コーチング論、バイオメカニクス、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、人間健康学

##### （後期）

専門スポーツ実習（陸上競技）、スポーツ科学、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ

#### ○教育方法の実践

Teams を活用し、授業資料などの展開を行った。これまで、講義科目では授業資料を事前配信し、スライドを手元でも確認できるようにしてきたが、今年度は授業後の配信と変更した。講義中の学習活動を、課題が提示された後で資料から答えを探すような活動から、講義を聴講しながら必要な事項をメモする活動への変更を促すことを期待した。昨年度までと同様に、講義内に複数回の知識のテストを配置し、知識の定借度合いを確認しながら講義した。

実技科目では学習カードの利用と、そのフィードバックを行う配布資料にてその日の実技の焦点について整理してから実技に取り組む形としている。そのことで、練習の焦点が整理され、できるようになる過程について理解度が高まったと考える。

○作成した教科書・教材

人間健康学（「運動を測定し定量的に評価する」）

○自己評価

講義中にメモを取りながら学ぶことができるように促し、一定の効果を得たと考える。次年度はノートテイキングについて扱うことで、手法の改善を目指したい。

II 研究活動

○研究課題

体力トレーニングによるジャンプ技術習得に関する研究  
サッカーにおける試合時の疾走要求と体力特性

○目標・計画

【目標】

調査データを分析し、投稿論文を執筆する。また、今年度もデータを収集する。

【計画】

昨年度までに収集したデータにて英文誌に投稿する。また、今年度のデータ収集を次の研究テーマに適した形となるように実施する。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・「運動を測定し定量的に評価する」第6章『人間健康学』西尾敦史，大勝志津穂，尚爾華 編．唯学書房，pp, 100-116, 2023.
- ・「指導者がもつ健康の運動指導上の位置づけ—高齢者と青少年対象の指導者の事例をとおして」第12章『長寿社会を生きる—地域の健康づくりをめざして』尚爾華，澤田節子，谷村祐子，肥田幸子，中野匡隆，木野村嘉則 編．唯学書房，pp, 100-116, 2017.

（学術論文）

- ・西村三郎，木野村嘉則．短距離走の疾走動作に関するシステムティックレビュー：初心者および陸上選手の支持脚の股関節角度，膝関節角度に着目して．スポーツパフォーマンス研究 17，pp. 186-203,2025
- ・Toshiki Kojima, Yuji Kamiaka, Yuzo Koyama, Yoshinori Kinomura. The Effectiveness of Learning Material Based on Multi-Interpretability of “the Fosbury Flop” in Physical Education in the Third Year of a Junior High School. International Journal of Sport and Health Science.vol.22, pp.A19-A39, 2024
- ・木野村嘉則．授業運営方法の改善が定期試験の正答率向上に及ぼす影響について：教科書を活用した復習を支援し理解度・満足度の向上を目指した授業実践．教材学研究 35pp. 45-52,2024
- ・Saburo Nishimura, Yoshinori Kinomura. Kinematic characteristics of novices' sprint techniques at maximum velocity phase. Topics in Exercise Science and Kinesiology 5(1) pp. 1-22, 2023
- ・Nishimura Saburo, Kinomura Yoshinori, Oshima Yuji, Kataoka Haruhi, Iida Shuhei, Yokozawa Shohei. Influence of the step number of the approach run on the jumping kinematics in volleyball spike jumps. Topics in Exercise Science and Kinesiology 4(1) pp. 1-9, 2023
- ・木野村嘉則，小島正憲．保健体育教員養成課程における専門実技授業における受講生の学びの焦点についての調査：大学1年生を対象として．東邦学誌，vol.52(1)，pp. 73-84, 2023.
- ・長谷川貴大，木野村嘉則，眞鍋芳明，木越清信，渡辺輝也．MCT-jump testにて評価されるパワー発揮特性のトレーナビリティ—男子大学生短距離走競技者を対象とした事例的検討—．陸上競

技学会誌, 23, pp33-44, 2023.

- ・小嶋季輝, 上赤祐司, 小山雄三, 木野村嘉則. 中学校3年体育授業における多視点型教材「背面跳び」の効果検証. 体育学研究, 67, pp213-233, 2022.
- ・小嶋季輝, 上赤祐司, 小山雄三, 木野村嘉則. 人間による人間の研究, その方法と方法論: 単一の学習者現実の一般的調査方法の提案. 東邦学誌, vol.50(1), pp71-82, 2021.
- ・Kenta Hato and Yoshinori Kinomura. Ball speed and spin rate during repetitive pitching by baseball novices. Journal of Physical Education and Sport. 21 (supplement issue 3) ,pp. 2081-2086, 2021
- ・Masanori Kojima, Yoshinori Kinomura, Kenji Kuzuhara. Development of observational indicators for evaluating handstand posture in the mat exercise in physical education class: validity and reliability. Journal of Physical Education and Sport. 21 (supplement issue 3) ,pp. 2087-2096, 2021
- ・Yoshinori Kinomura, Saburo Nishimura, Haruhi Kataoka, Shuhei Iida. The influence of vertical jump ability on spike jump height with an approach run in female volleyball players. Serbian Journal of Sports Sciences. Vol. 12 (1) ,pp. 11-16, 2021
- ・Saburo Nishimura, Tomoyo Miyazaki, Yoshinori Kinomura, Tomohiro Kizuka, Yoshinori Okade. Identifying an effective technique to improve the sprinting performance of male high school students who have a low sprinting ability. Journal of Physical Education and Sport. 20 (supplement issue 3) ,pp. 2021-2029, 2020, doi:10.7752/jpes.2020.s3273
- ・Saburo Nishimura, Yoshinori Kinomura, Yasuto Kobayashi, Rei Matsuzaki, Shoichi Matsushita, Nobuyuki Ikeda. Learning Outcomes for Physical Education in Long Jump: Is it Possible for 5th Graders to Learn Take-off Techniques that Enable Greater Vertical Velocity? International Journal of Sport and Health Science.vol.17, pp.A37-A53, 2019
- ・小嶋季輝, 上赤祐司, 小山雄三, 木野村嘉則. 「深い学び」の実現に向けた授業改善の方途の提案 : 中学校3年「走り高跳び」「背面跳び」の学習を事例として. 東邦学誌, vol.48, pp71-91, 2019.
- ・相川悠貴, 木野村嘉則, 兼安真弓. 2型糖尿病モデルラットの糖代謝異常発現に対する田七人参摂取と運動の効果. 紀要, Vol. 66 , pp.1-8, 2018.
- ・木野村嘉則, 木下達生, 波戸謙太, 葛原憲治. 野球における二塁までのベースランニング時の走塁コースの分類に関する試案 : 中学生及び高校生による自由走路疾走条件を事例として. 東邦学誌, Vol. 46 (2) pp.93-104, 2018.
- ・西村三郎, 木野村嘉則, 松崎鈴, 松下翔一, 池田延行. 小学校高学年児童を対象とした走り幅跳びにおける助走歩数が跳躍距離に与える影響. 国士舘大学体育研究所所報, Vol.36, pp.35-42, 2017
- ・西村三郎, 木野村嘉則, 小林育斗, 松崎鈴, 松下翔一, 池田延行. 小学校高学年児童を対象とした走り幅跳びの体育授業における学習成果の検討 : より大きな鉛直速度を獲得できる踏切は学習可能か? 体育学研究, Vol. 62 (2) , pp.647-663, 2017.
- ・藤林献明, 木野村嘉則, 関子浩二. ジュニア男子アスリートを対象とした Rebound Long Jump Test と疾走及び水平跳躍能力との関係. びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, Vol. 14, pp.105-114, 2017.
- ・古市直樹, 鎌田公寿, 木野村嘉則, 小嶋季輝. 教室環境における共同注視に関する共同分析による試論. 琉球大学教育学部紀要, Vol. 90, pp.9-26, 2017.

(学会発表)

- ・岡田遼, 木野村嘉則, 西村三郎, 品田直宏, 松下翔一, 藤林献明. 走幅跳のルール変更が助走の

- キネマティクスに与える影響. 日本コーチング学会第 36 回学会大会.p.61, 2025
- 西村三郎, 木野村嘉則, 岡田遼, 品田直宏, 藤林献明, 松下翔一. 走幅跳のルール変更が踏切動作に与える影響. 日本コーチング学会第 36 回学会大会.p.40, 2025
  - 木野村嘉則, 西村三郎, 片岡悠妃, 飯田周平, 横沢翔平. 高く跳ぶための踏切動作は助走歩数によって変化するか?—大学女子バレーボール選手における 2 歩および 3 歩助走によるスパイクジャンプの分析—. 日本コーチング学会第 35 回学会大会.p.57, 2024
  - 西村三郎, 木野村嘉則, 横沢翔平. 短時間で行われるスパイクジャンプの遂行能力と跳躍動作の関係. 日本コーチング学会第 35 回学会大会.p.57, 2024
  - 西村三郎, 木野村嘉則. 陸上競技短距離走における初心者と競技者の疾走動作の特徴—先行研究のレビューを通して—. 日本陸上競技学会第 22 回大会. P.34, 2024
  - Yoshinori Kinomura, Saburo Nishimura, Haruhi Kataoka, Shuhei Iida, Shohei Yokozawa. Analyzing the takeoff motion of female university volleyball players during spike jumping with a high approach speed. The 2023 International Conference for the 11th East Asian Alliance of Sport Pedagogy. 2023.
  - Yoshinori Kinomura, Saburo Nishimura, Matsuzaki Rei, Matsuhita Shoichi, Kataoka Haruhi, Iida Shuhei. Characteristics of jump ability in female volleyball players. The 2019 International Conference for the 8th East Asian Alliance of Sport Pedagogy. p.123, 2019.
  - Shoichi Matsushita, Yoshinori Kinomura, Saburo Nishimura, Haruka Kataoka, Rei Matsuzaki, Shuhei Iida. Characteristics of female volleyball players with high efficiency of arm swing and counter movement in the vertical jump. The 2019 International Conference for the 8th East Asian Alliance of Sport Pedagogy. p.122, 2019.
  - 熊野陽人, 下嶽進一郎, 木野村嘉則, 東中友哉, 松尾彰文. 走幅跳の助走において選手の感覚とデータは一致するのか?—各歩の助走速度と接地時間に着目して—. 日本陸上競技学会大会第 17 回大会, p.28, 2018
  - 木野村嘉則, 下嶽進一郎, 熊野陽人, 松尾大介, 越川一紀, 松尾彰文. プライオメトリクストレーニングにおける力発揮特性の経年変化～自己記録を向上させた選手の特徴～トレーニング科学, Vol.30(3), p.173, 2018
  - Yoshinori Kinomura, Natsuki Sado. Case study of the effect of high-intensity intermittent exercise on the distance traveled during high-speed running in a football game. 2018 KNSU International Conference – Asia-pacific Conference on Coaching Science – Constructing a happy sport field of future generations. pp.76-77, 2018
  - Saburo Nishimura, Yoshinori Kinomura, Shoichi Matsushita, Rei Matsuzaki, Nobuyuki Ikeda. Influence of approach distance of long jump on jump characteristics of 5<sup>th</sup> graders. 2018 KNSU International Conference – Asia-pacific Conference on Coaching Science – Constructing a happy sport field of future generations. pp.132-133, 2018
  - 小島正憲, 葛原憲治, 木野村嘉則. 初心者の倒立における評価指標の提案. 日本体育学会大会予稿集, Vol. 68, p.235, 2017.
  - 波戸謙太, 木野村嘉則. 野球初心者の全力投球からみたスピードトレーニングの適正反復投球数, 日本体育学会大会予稿集. Vol. 68, p.235, 2017.
  - 木野村嘉則, 波戸謙太. 全国高校野球選手権において無死 1 塁場面で用いられた攻撃戦術の分析, 日本体育学会大会予稿集. Vol. 68, p.235, 2017.

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・令和 6 年度科学研究費助成事業基盤研究 C 申請—不採択
- ・令和 4 年度科学研究費助成事業基盤研究 C 申請—不採択
- ・令和 3 年度大学体育研究助成—採択
- ・平成 31 年度科学研究費助成事業若手研究申請—不採択
- ・平成 30 年度科学研究費助成事業若手研究申請—不採択
- ・平成 29 年度科学研究費助成事業若手研究申請—不採択
- ・平成 28 年度科学研究費助成事業若手 B 申請—不採択
- ・平成 27 年度笹川科学研究助成申請—不採択
- ・平成 27 年度大幸財団人文・社会科学系学術研究助成申請—不採択
- ・平成 26 年度科学研究費助成事業研究活動支援スタートアップ申請—採択

○所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会，日本コーチング学会，日本トレーニング科学会，日本スポーツ教育学会，日本教材学会，日本体育科教育学会，日本スポーツパフォーマンス学会，日本バレーボール学会

○自己評価

今年度、4 月時点での計画とは異なる研究テーマの進捗を得ることになった。

### III 大学運営

○目標・計画

【目標】

所属委員会、大学および学内事業にて、情報の確認・把握をしっかりと行い役割を果たす。

【計画】

中高教職課程部会や、入試問題作成委員、指示された学部 WG にて自身の役割を果たし、貢献する。

○学内委員等

中高教職課程部会、入試問題作成委員会、卒業生広報 WG、男子バスケットボール部部長

○自己評価

所属委員会、WG にて役割を果たし、また、改善につながるアイデアを共有し協議した。

### IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

研究成果を社会活動に活かす。クラブチームでの小学生へのサッカーの指導を継続する。この際には、子弟を教育するは天に事うる職分であると捉え、広く社会に報告できる取り組みを目指す。また、同様に事例対象者を中心として陸上競技者、陸上競技の指導者へのサポートを行う。

【計画】

学外授業にて高校生と接することがあれば、スポーツ科学分野に興味を持てるような授業を心がけ、進路選択の一助となるよう取り組む。スポーツの指導においてはサポートに際して、専門分

野の知見の提供を求められているため、相手に伝わるように知見提供を行うとともに、実践上に現れる問題や課題について一緒に解決に向けて取り組んでいく。

○学会活動等

学術論文の投稿、学会大会での研究発表

○地域連携・社会貢献等

少年サッカークラブの指導、高校陸上部指導者へのサポート、高校での出張授業、小学生への学習教室の運営

○自己評価

専門領域に関わる情報発信、アウトリーチ活動に努めていきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

上記計画に取り組みながら、外部資金の獲得を目指す。

VI 総括

昨年度と今年度にてレビュー論文を発表することができた。この課題に取り組むことで、自身の授業での指導内容の整理も行え、授業改善にもつながっていると感じている。現場に役立たせることができるように研究活動に取り組み、より善いやり方での実践に貢献できるように取り組みたい。

以 上